

産業保健Q & A (業務上疾病関連)

| No. | 質問 | 回答例 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|--|----|------|-------|-------------|-------------------|--|------------------------------|--|--------------|----------------------------|---------|---|-----------------------|-------------|---|----|---------|-------|-----------|-------------------------------------|
| 1 | <p>・化学物質によるアレルギー性の皮膚症状、特に金属、機械油による対応はどうすべきでしょうか？</p> | <p>・化学物質による皮膚障害は、①接触性皮膚炎、②角化異常、③色素沈着などがあります。そのうち、9割は、接触性皮膚炎ですので、今回は、接触性皮膚炎（湿疹も含む）について、回答します。</p> <p>・接触性皮膚炎は、アレルギー性と刺激性に分類できます。どちらが多いか明らかではありませんが、アレルギー性が60%という報告があります。アレルギー性接触皮膚炎は、刺激性接触皮膚炎と異なり、微量のアレルゲンで皮膚炎を起こし、曝露する度に症状が悪化する傾向にありますので、早期対応が重要です。職業性接触性皮膚炎の病型・原因物質・症状について、下表に示します（引用：接触皮膚炎診療ガイドライン2020）。</p> <div data-bbox="504 603 2094 1260" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>表7 職業性接触皮膚炎 症状・部位・原因</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病型</th> <th>原因物質</th> <th>症状・概説</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">アレルギー性接触皮膚炎</td> <td>金属（ニッケル・コバルト・クロム）</td> <td>金属を含むもの（皮革・塗料など）に触れて生じることが多い。接触部位をこえて接触皮膚炎症候群や全身型金属アレルギーを生じることがある。</td> </tr> <tr> <td>樹脂（レジン） エポキシレジン アクリル樹脂</td> <td>手だけではなく顔面にも生じる。微細な粉として空気中に浮遊して症状を起こす。工場現場以外に歯科衛生士、ジェルネイルを扱うネイリストに発症する。</td> </tr> <tr> <td>ゴム（MBT,TMTD）</td> <td>職業の場では手袋や長靴のゴムが問題となることが多い。</td> </tr> <tr> <td>切削油・機械油</td> <td>ざ瘡を生じることがある。切削油の中には種々の物質が含まれていて、原因の特定は困難。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">アレルギー性接触皮膚炎 光接触皮膚炎</td> <td>農薬（除草剤・抗生剤）</td> <td>手や露出している顔面・頸部などに紅斑や苔癬化、亀裂を生じる。原因が反復して接触し慢性化することが多い。</td> </tr> <tr> <td>植物</td> <td>植物の項参照。</td> </tr> <tr> <td>接触蕁麻疹</td> <td>ゴム（ラテックス）</td> <td>接触蕁麻疹・喘息発作を生じる。ラテックス・フルーツ症候群の合併に注意。</td> </tr> </tbody> </table> </div> | 病型 | 原因物質 | 症状・概説 | アレルギー性接触皮膚炎 | 金属（ニッケル・コバルト・クロム） | 金属を含むもの（皮革・塗料など）に触れて生じることが多い。接触部位をこえて接触皮膚炎症候群や全身型金属アレルギーを生じることがある。 | 樹脂（レジン） エポキシレジン アクリル樹脂 | 手だけではなく顔面にも生じる。微細な粉として空気中に浮遊して症状を起こす。工場現場以外に歯科衛生士、ジェルネイルを扱うネイリストに発症する。 | ゴム（MBT,TMTD） | 職業の場では手袋や長靴のゴムが問題となることが多い。 | 切削油・機械油 | ざ瘡を生じることがある。切削油の中には種々の物質が含まれていて、原因の特定は困難。 | アレルギー性接触皮膚炎 光接触皮膚炎 | 農薬（除草剤・抗生剤） | 手や露出している顔面・頸部などに紅斑や苔癬化、亀裂を生じる。原因が反復して接触し慢性化することが多い。 | 植物 | 植物の項参照。 | 接触蕁麻疹 | ゴム（ラテックス） | 接触蕁麻疹・喘息発作を生じる。ラテックス・フルーツ症候群の合併に注意。 |
| 病型 | 原因物質 | 症状・概説 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アレルギー性接触皮膚炎 | 金属（ニッケル・コバルト・クロム） | 金属を含むもの（皮革・塗料など）に触れて生じることが多い。接触部位をこえて接触皮膚炎症候群や全身型金属アレルギーを生じることがある。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 樹脂（レジン） エポキシレジン アクリル樹脂 | 手だけではなく顔面にも生じる。微細な粉として空気中に浮遊して症状を起こす。工場現場以外に歯科衛生士、ジェルネイルを扱うネイリストに発症する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ゴム（MBT,TMTD） | 職業の場では手袋や長靴のゴムが問題となることが多い。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 切削油・機械油 | ざ瘡を生じることがある。切削油の中には種々の物質が含まれていて、原因の特定は困難。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アレルギー性接触皮膚炎 光接触皮膚炎 | 農薬（除草剤・抗生剤） | 手や露出している顔面・頸部などに紅斑や苔癬化、亀裂を生じる。原因が反復して接触し慢性化することが多い。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 植物 | 植物の項参照。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 接触蕁麻疹 | ゴム（ラテックス） | 接触蕁麻疹・喘息発作を生じる。ラテックス・フルーツ症候群の合併に注意。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|----------|---|---|
| <p>2</p> | <p>(つづき)</p> <p>・化学物質によるアレルギー性の皮膚症状、特に金属、機械油による対応はどうすべきでしょうか？</p> | <p><対応について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・接触性皮膚炎は、だれにでも起こる可能性があり、機械油には、様々な化学物質が含有しており、アレルゲンとなる原因特定は困難です。また、過去のアレルギー歴で危険度は推測できません。 ・スクリーニング問診調査に関しては、有用性が乏しいと考えます。アトピー性皮膚炎（素因）の方は、皮膚のバリアが弱いため、接触性皮膚炎の危険度が高いので、リスクアセスメント結果で危険度の高い化学物質については、配置を避ける判断材料になるかもしれません。 ・パッチテストは、皮膚科専門医が行う検査（自由診療扱い）です。また、検査による危険性、擬陽性、偽陰性もあります。会社として、配置前のパッチテストは、実施すべきではないと考えます。 ・以上より、職場での対応は、以下のような考え方が現実的かと考えます。 <ol style="list-style-type: none"> ①化学物質のリスクアセスメントにより有害性を評価し、有害性の低い物質に代替できないかを検討する ②曝露を最小限にする 発散源対策、局所排気装置の設置、作業方法の改善、有効な保護具の使用 経皮曝露の防止：化学用手袋等の着用、作業服に付着しないようにする ③皮膚に接触した場合は、できるだけ早く流水で洗い流す ④作業と関連性がある皮膚症状が出現したら、原因と思われる化学物質を回避する ⑤作業歴、作業内容、SDSなどの情報を確認し、皮膚科医師の診察を受ける。 |
| <p>3</p> | <p>・有機溶剤取扱作業者に皮膚障害が発生した、どう対処すべきでしょうか？</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・急性障害の場合、原因を取り除けば症状は改善されますので、まずその溶剤にばく露しないようにすればよいです。 ・専門医を紹介するとすれば有機溶剤の場合は神経学的障害も考えられるので神経内科を紹介頂ければと思います。 |
| <p>4</p> | <p>・有機溶剤の特殊健康診断の問診票で自覚症状が確認された時、有機溶剤との関連性を確認する方法は？</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・症状が作業中または作業に関連して起こっているか、症状が一過性であるか持続性であるか、症状が一定であるか進行性であるかなどを問診で確認します。 |